

医療的ケア児等コーディネーターの配置等に関する市町村アンケート集計結果

1. 実施経緯

- 神奈川県では医療的ケア児等の支援の一環として「医療的ケア児等コーディネーター等研修事業」を実施し、相談支援専門員、保健師、訪問看護師等、今後地域においてコーディネーターの役割を担う予定のある方の養成を行っているが、コーディネーターは市町村ごとまたは圏域ごとに配置を進めることとされており、全国的にも配置状況・形態は様々となっている。
- そこで、県内市町村におけるコーディネーターの配置・運用に関する意向・状況や、その他医療的ケア児等に関して認識している課題等を確認することで、今後の施策の参考とするべく、別添アンケート調査を実施した。

2. 実施結果

(1) 回答市町村数

回答市町村数(n=33)	
回答済み	31
未回答	2

(2) コーディネーターの配置について

コーディネーターの配置や予定の有無(n=31)	
はい	5
予定あり	5
いいえ	21

コーディネーターの配置が進めることができない理由(n=21 複数選択可)	
ア 県実施のコーディネーター養成研修の受講者がいない(政令市不可)	12
イ コーディネーターの役割が不明である	12
ウ コーディネーターの適切な配置方法が不明(直接雇用・委託・補助 など)	11
エ 予算要求が難航している	1
オ 単独でのコーディネーター設置が困難である	7
カ その他(自由記載)	7

コーディネーターの配置に関して県に求める支援(n=31 複数選択可)	
ア コーディネーター研修受講者のフォローアップ(政令市不可)	14
イ 広域的なコーディネーターの連携調整	17
ウ コーディネーターの役割の例示	25
エ コーディネーターの配置方法の例示	25
オ その他(自由記載)	6

(3) 実態把握の有無

実態把握有無(n=31)	
はい	12
予定あり	4
いいえ	15

(4) 医療的ケア児等に関する課題感

全般的な課題(n=31 複数選択可)	
ア 医療的ケア児の実態が不明(ニーズや必要な施策がわからない)	17
イ 医療的ケア児に対応可能な医療機関・施設等がわからない	12
ウ 関係分野の連携が希薄	12
エ 庁内での連携や情報共有・集積ができていない	13
オ 課題を把握していない	9
カ その他(自由記載)	13

保健・医療の課題(n=31 複数選択可)	
ア 退院時に病院と保健師等の連携が取れていない	3
イ 退院後の患者・家族へのケアが十分行えていない	4
ウ 医療的ケア児に対応可能な医療機関等が少ない	18
エ 在宅医療を担う医師と病院等の小児科医との連携が取れていない	4
オ 課題を把握していない	9
カ その他(自由記載)	10

障害福祉の課題(n=31 複数選択可)	
ア 医療的ケア児に対応可能な福祉施設が少ない	25
イ 医療的ケア児支援に詳しい人材が少ない	23
ウ 各種サービスや地域の支援機関とが十分に繋がっていない	8
エ 障害児制度における医療的ケア児の位置づけが不明瞭	11
オ 課題を把握していない	9
カ その他(自由記載)	5

※ 個別の自治体名は公表しないこととして調査を実施
 なお、各解答は2019年7月1日現在の状況を尋ねたもの

3. 傾向等

- コーディネーターの配置については、(養成研修の実施主体と配置主体を兼ねる政令市を除くと)多くの市町村が配置や具体的な予定・構想を立てることができていない状況。
- コーディネーターの役割や配置方法が不明であるという意見は多くの市町村から回答があり、また広域的な調整を県に求める声も人口の少ない自治体や患者の流入が多いと思われる自治体からを中心に回答があった。
- 人口の少ない自治体ほど医療的ケア児の実態を把握していると回答している。
- 一方、児の実態やニーズが不明といった意見は多くの市町村から提出された。
- 保健・医療に関する課題は「対応可能な医療機関が少ない」が最も多かったものの、他の設問と比較すると肢が選択された回数自体が少ない。(政令市や一部中核市を除く市町村に医療担当部署が存在しないことが理由と思われる。)
- 障害福祉に関する課題については、多くの市町村が資源・人材不足を課題としていた。